

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター

トレセンの特徴的な取組として次のようなものがあります。

○ボランタリー・サービス（V・S）方式による問題解決

児童生徒の自主性・自発性を引き出すため、係活動ではなく、各自の自発的な活動を運営に取り入れます。参加者全員が互いに快適な生活を創り出すためにはどうしたらよいかを考え、実行します。

○先見（せんけん）

先見とは、いつ、いかなる事態に直面しても対処できるように、日ごろから備えておくという意味です。プログラムの中に「先見の時間」があります。参加者が何を学び、どのように行動するかを自分で考え、そのための準備をするための時間です。

○号令のない生活・5分前行動

だれも号令をかけない、かけられない生活。指示されて動くのではなく、児童生徒自身の自己管理を促すものです。トレセンでは指導者（先生）の号令ではなく、日程や行動に関する情報はすべて「掲示板」に掲示します。

○児童生徒の気づきを待つ「待ちの姿勢」

指導者（先生）は本人の気づきを大切にします。そのため、気づきを促すための支援を大切にしています。

○注意深い生活

時計や掲示板を見ること、人の話をよく聞くこと、わからないことは聞くこと、健康や安全に気を配ることを学びます。

○ホームルーム

ホームルームの時間では、各自の考えや反省、疑問などを自由に出し合い、互いの理解を深め、行動に繋がります。